

## 寄 附 講 座 の 概 要

- 1 部局名 千葉大学大学院医学研究院
- 2 寄附講座の名称 地域消化器内科人材育成・調査研究寄附講座（埼玉県）
- 3 設置期間  
令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日
- 4 担当教員名及び職名  
特任教授 伊藤博  
特任助教 丸田四季子
- 5 寄附講座の教育研究領域の概要（カリキュラムを含む。）

本講座設立の趣旨は、今後の人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化を見据えた地域医療構想実現のための調査・研究と、地域医療を担う医療人の人材育成を行うことである。

地域医療構想は、少子高齢化の進展が見込まれる中、限られた医療・介護資源を効果的・効率的に活用し、国民が地域において安心して質の高い医療・介護サービスが受けられるよう、医療ニーズの内容に応じて、医療機関の病床機能の分化と連携を推進することを目的としている。厚生労働省は、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上となる2025年をひとつの目標年としており、日本の医療体制の今後を考えるうえでも喫緊の課題の一つである。地域医療構想実現のためには、構想区域における将来の病床区分ごと（高度急性期機能、急性期機能、回復期機能、慢性期機能）の必要病床数の把握と適切な配置、および地域医療における格差解消が求められている。地域偏在のみられる診療科に対する医師確保への支援や研修の充実、専門医の育成と医療現場への配置は重要な課題であり、現在、千葉大学大学院消化器内科学教室ではその問題を解決するため、企業と協力し、地域の病院を含めた多施設間で患者情報の共有することで、診断および治療レベルの均てん化を目指した試みを開始している。今回、埼玉県北部地域における地域医療体制の調査と整備に関する研究を行う事で、地域医療体制における問題点を明確化し、本試みをさらに進めることを目的としている。本講座によって得られた成果は、将来的に千葉県の地域医療構想実現にも繋がる他、偏在化している地域医療にも十分な医療技術を提供できる医療環境をもたらし、我が国の医療・福祉に貢献すると考えられる。